

## 農村計画委員長便り 4 040921

### 目次

1. 6/20 春季学術研究会「美しい集落 -私のフィールドノートから-」報告
2. 8/29-31 北海道大会農村計画部門
3. 8/30 第2回本委員会報告

### 今後の主なスケジュール

#### 1.04年度・春季学術研究会「美しい集落-私のフィールドノートから-」報告

04年6月20日(日)13:00-17:30に開催された春季学術研究会には、パネラーを含め、34名の参加があった。黒野先生が当日の様子をまとめてくれたのでそのまま転載する。

「まず、伊藤庸一氏(農村計画本委員会委員長/日本工業大学)より、表題「美しい集落-私のフィールドノートから-」について主旨説明がなされた。その後、予定されていた4名の発表者が、学位論文の内容を紹介しつつ、それぞれのフィールドで何をテーマとして選び、それをどのように記述し、分析し、まとめていったのかという一連の研究プロセスを披露した。

最初に、大沼正寛氏(東北文化学園大学)より、現在では伝統的建造物群保存地区に選定されている金ヶ崎町を題材に、その保存対策調査に始まり、地区特性の読みとり、住民の合意形成、条例の制定、今後の展望に至るまでの詳細な報告があった。その内容は行政手続きとしての調査をはるかに越えるものであり、参加者に対して、金ヶ崎の魅力と同時に、現在の日本の集落で何が問題となっているのかについても、きわめて強い印象を与えた。

次に宋俊淑氏(日本工業大学)から、韓国の伝統的農村集落である九萬面の住居と集落に関する論文の紹介がなされた。一見、閉鎖的に見える韓国の家屋が、風水にもとづくことにより、自然の地形にいかによくとけ込んでいるかについて、わかりやすい空間構成の解説があった。

三番目に山崎寿一氏(神戸大学)により、四国の山間地の中久保集落の研究が紹介された。一つの集落に調査対象を絞ることにより、生産や社会関係や歴史が集落と住居の空間にいかに関与しているかを記述する、ケース・スタディの力を余すことなく伝える発表であった。調査の視点、分担の方法、議論のまとめ方など、会場では、現地で氏が作成した膨大なノートが回覧された。多くの参加者はそこに描かれたスケッチに見入っていた。

最後に、山崎義人氏(神戸大学)により、長野県の山間地の集落の研究が紹介された。あえて一人で調査を行い、多量のデータを統計的に処理するのでは得られない、集落空間の質を、新しい手法で記述しようという試みが披露された。それは、多くの参加者に可能性を感じさせるものであった。

休憩を挟んだ後で、参加者一人一人が、もちよったフィールド・ノートを壁に貼り、その前に立って他の参加者全員に紹介した。研究や実務の経験のある参加者は、現在研究中

のフィールド・ノート、あるいは、かつて描いたフィールド・ノートをその思い出とともに語った。また、調査研究に馴染みの少ない参加者は、発表内容に対する感想を述べた。

特筆されることは、若い大学院生の参加者から、自らが進めようと考えている調査研究に対して、さまざまな視角から検討する機会となったことを、評価する声が多く聞かれたことである。このように、フィールド・ノートという実体を介することにより、経験や年齢の差に関係なく、集落研究の目指す方向と自分の位置づけを再認識することができた。その点で、たいへん有意義な学術研究会になったと言えよう。これもひとえに、完成したばかりの学位論文とそのプロセスを詳しく紹介していただいた4名の発表者の、レベルの高い発表に負うところが大きい。(黒野弘靖)

*委員長独り言：企画・司会の黒野先生、パネラーの方々のおかげで盛り上がったと思う。一般会員の参加もあり、一人ずつのフィールドノート紹介も有意義であった。農村計画から、若い研究者を意識した、図集「私のフィールドノート」の出版を検討したいと思った。*

## 2. 北海道大会農村計画部門

農村計画部門は90題と投稿数は少なかったが、連日、会場は空席を探すほどの盛況であった。とくに、若い研究者が多く、頼もしく感じた。学術講演の概要(広報用)を鎌田先生がまとめてくれたので、転載する。

「農村計画部門の特徴と本年度の学術講演の概要/建築学会の主要なジャンルのひとつとして「農村計画部門」があることはあまり知られていない。農村計画部門では建築計画や都市計画といった他の計画系の部門に比べてホリスティックな視点を重視する研究が多い。特に最近では部門としてのそうした特性を生かして、従来の「農村のための研究」だけでなく、「共生社会のモデル」「都市型社会の中での農村・田園的環境」「環境資源とその管理」というような持続的・全体的考察を必要とする対象へと研究領域を広げてきている。また、当部門では、近年では若い研究者および地方を活動拠点とする研究者やプランナーの応募が顕著になってきている。

本年度の当部門での学術講演総数は90編と昨年度の117編に比べて減少したが、建築計画部門での「伝統的住宅」や「集落」の研究、都市計画部門での「都市周辺部」や「地方都市」の報告でも、農家・農村・漁村に関するテーマが展開されるようになってきている。そうした意味では農村を研究対象・計画対象として捉えることおよび農村計画部門で培われてきたホリスティックな視点は計画系部門全体に定着してきていると言えよう。

### トピックスの動向

今年度の学術講演のトピックスは15である。これらのトピックスは、環境学習・環境管理・環境資産・エコミュージアム等の「環境共生」に関するもの、「住民参加・まちづくり」に関するもの、生活空間・集落空間・集落景観等の「空間論・景観論」に関するもの、市町村合併・土地利用・都市農村交流・グリーンツーリズム等の「都市と農村の関係性」に関するもの、「定住施策」に関するもの、「民家・伝統建築・地域施設」に関するもの、「海外の農村研究」に関するもの等に大別される。

「環境共生」に関するものでは、従来の農村部の環境資源に留まらず、市街地や地方都市の農的環境資源にまで言及したものが増えてきている。また、オーガナイズドセッションではこれまでと視点を換えた「負の環境資産」に注目したテーマ(6017)が報告される。「住民参加・まちづくり」に関しては全体(広域)計画から個別計画を対象としたワークショップに関して、様々な手法とその効果が報告される。このジャンルでの「三宅島噴火災害後の生活再建と復興」に関する報告(6030)は、まちづくり系としては特殊な対象であるが社会的注目度が高い報告であろう。「空間論・景観論」に関しては、伝統的農村空間を解説する報告が多い。「都市と農村の関係性」に関する計画圏域(6020～6023)・線引き廃止(6060)・調整区域の開発条例(6020)等の報告は、市町村合併に伴う広域レベルでの計画策定等の実務レベルにおいて役立つ情報となろう。「定住施策」に関しては、主に中山間地域での最近の定住施策の取り組み状況とその課題が報告される。「民家・伝統建築・地域施設に関しては、それらの新たな利用方法・管理方法等を中心として報告される。「海外」に関しては、経済発展の中で揺れ動くアジアの居住様式についての報告が注目される。(農村計画委員会広報委員 鎌田元弘)」

委員長独り言：今年は、かつての農村計画情報をイメージして、試行的に各セッションの講評と一押しの梗概の推薦を司会の方々をお願いした。とりまとめの後に、主査幹事会、本委員会で合意できれば、ホームページなどに公開する予定である。農村計画部門の活性化と若手育成につながることを期待している。

研究協議会「環境資産活用の多面的な展開方向 - 地域自立への挑戦」、PD「住民自治の表現としての地域デザイン」も盛り上がりを見せた。PD資料集は完売とのこと。企画、司会、パネラーの方々、ご苦労様。・・・協議会後の反省・懇親会も30名を超える参加者でにぎわい、次年度に向けたアイデアが話題になった。

### 3.04年度・第2回農村計画本委員会報告

北海道大会時の8月30日に本委員会を開催した。昼休みしか時間がとれず、しかも北海道大学の広さもあって、十分な議論ができなかったが、24名の委員が活潑な意見を交換した。黒野先生の記録をもとに、議論の要点を紹介したい。

参加者：伊藤庸一・岡田知子・神吉紀世子・鎌田元弘・黒野弘靖(書記)・藍沢宏・岩田俊二・大内宏友・大沼正寛・蟹江好弘・川嶋雅章・菊地成朋・栗原伸治・齋藤雪彦・柴田加奈子・月館敏栄・中島熙八郎・沼野夏生・伴丈正志・前田真子・三橋伸夫・山崎寿一・山崎義人・山下 仁

配布資料・略

確認事項：第1回農村計画本委員会議事録(案)の確認ほか、略

報告事項：6・7月学術推進委員会議案、2003年度委員会活動成果報告の公開2004年内部監査報告書、2005年度予算の配分方法、2003年度出版物販売状況、2003年講習会・シンポジウム等開催結果、農村計画委員会予算執行状況など、略

**伊藤より、本委員会予算が限られているので、執行予定のない小委員会予算**

**を本委員会に振り替えたいとの意向が示された**

審議事項：

学術推進委員会より依頼された「能力開発支援制度への支援、IT を利用したコンテンツ、電子会議の導入等」について：本委員会、各小委員会で検討のうえ、意見を委員長までお願いしたい

2005 年度開始特別研究委員会の公募について：委員長より 2004 年夏季に各地で発生した水災害をテーマを検討してはとの提案があったが、結論は出なかった。ほかに提案があればお願いしたい

05 年度日本建築学会大賞業績候補の候補者について：候補者の推薦をお願いしたい

05 年度日本建築学会文化賞候補業績の候補者について：候補者の推薦をお願いしたい  
前出、2004 年度農村計画委員会春季学術研究会「美しい集落-私のフィールドノート-」報告

集住文化小委員会・公開研究交流会「山に暮らす-集住の知恵 9-」報告

**ワーキンググループ設置について：**

農村計画研究WG（主査：鎌田、幹事：斎尾）の設置が提案され、了承された

ルールネットWG（主査：岡田、幹事：山崎義人、柴田・遊佐）の設置が提案され、了承された。

アジア農村計画研究WG（主査：川嶋）の設置が提案され、了承された。

**WG は設置申請書に基づき、本委員会です承後、活動を開始することができる。ただし、名称や具体的な活動、幹事や委員についてさらに検討をすすめる必要があるので、10 月をめどに設置申請書を作成し、メール連絡で確認のうえ、活動を開始して頂きたい**

**各委員会活動状況について：**

農村計画情報交流小委員会：日本の美しい集落景観について、電子アーカイブ化を試行する

農村計画システム小委員会：研究内容をまとめた冊子を作成している

田園建築・景観デザイン小委員会：05 年 1 月 8 日あたりに新潟県川西町での研究会 + 見学会を検討している。後述の次回本委員会と重ねる

農村エコシステム小委員会：下川町の循環型地域づくりの研究見学会を予定している

集住文化小委員会：「集住の知恵」を 2004 年 12 月に刊行予定（技報堂出版）

ラーバンデザイン小委員会：「ラーバンデザイン-混在・混乱から共生の環境へ-」の執筆をすすめている。

環境教育研究会：2004 年 11 月 17 日に国際研究集会（於神戸大学）を予定。来年度は小委員会として活動したいとの要請があり、了承された

次回の本委員会：次回は旅費ありで開催したい、研究会と重ねたいとの委員長提案があり、05 年 1 月 8 日本委員会、当日または翌日に、田園建築・景観デザイン小委員会主催による研究会開催を検討していくことになった

**委員長提案：農村計画委員会として、1 年に、春夏秋冬の 4 回以上の研究会を開き、会員、社会に研究成果を公開したいと考えている。たとえば、**

04 年冬の学術研究会：上記提案のあった田園建築・景観デザイン小委企画 1月8日頃

05 年度春季学術研究会：情報交流小委企画で（仮）美しい農村アーカイブを検討

05 年度夏 = 大会協議会またはPD：集住小委「集住の知恵」をテーマに？

ほかに小委員会企画の協議会、PD あれば提案をお願いしたい

05 年度秋の学術研究会：例えば、アジア農村建築研究WG 企画で韓国での国際研究会？

05 年度冬の学術研究会：??

ほかに、農村計画研究WG の提案を待って研究会を企画、または、大会梗概発表会で話題になった村づくりワークショップをテーマに研究会を企画など、アイデアはかなりありそう。本委員、小委員会の企画提案をお願いしたい

本委員会の時間がかかなり少なかったが、意見交換は活発だった。農村計画メンバーの御意見や提案を願いたい

なお、本委員会後、次の2点について回答を求められていることを思い出した。

技術部門設計競技の課題提案について： 提案があれば農村計画メールで連絡をお願いしたい

卒業論文等顕彰事業委員の推薦について： 留任は沼野氏 + 新任に伴丈氏を考えているが、自薦他薦があれば連絡をお願いしたい

#### 今後の主なスケジュール

10月7日 学術推進委員会

10月中旬に 農村計画WG 設置申請書作成

12月7日 学術推進委員会

1月7日 学術推進委員会

1月8日 農村計画第3回本委員会・冬季学術研究会

3月17-18日 各委員会委員長は小委員会の活動を集約して、全代議員120名に報告

4月8日 学術推進委員会

5月11日 プログラム編成会議

9月1-3日 日本建築学会大会（近畿大学）

（文責・伊藤庸一 itoitoyo@hotmail.com）